

評価担当者：園長、主任、副主任  
保育の質向上委員会

1 子どもの権利

		○	△	×	
1	職員全体で子どもの権利や保育園の役割について理解している	15	2	1	18
2	一人一人の子どもの人格を尊重して保育を行っている	16		2	18
3	一人一人の子どもの気持ちを受容し、共感しながら子どもとの継続的な信頼関係を築いている	16	1	1	18
4	子どもの発達や経験の個人差、国籍や文化の違いを理解し、配慮している	16	1	1	18
5	多様な家庭環境を理解し、それぞれの家庭や子どもにとって適切な援助をしている	15	1	2	18
6	性別や障がいの有無などによる固定的な意識を植え付けることがないようにしている	15	1	2	18
7	プライバシー（おむつ交換、トイレ、着替え等）に配慮している	15	2	1	18
8	子どもの言動を無視するなどの行為や、不必要な大きな声を出すなど、むやみな制止や禁止はしていない	13	4	1	18
9	否定的、抑圧的、管理的な対応や体を傷つけるような行為などはしていない	15	2	1	18

## 2 保育環境

		○	△	×	
1	室内の温度、湿度、換気、採光、音などの環境は常に適切な状態に保持している	15	3		18
2	施設内の清掃、玩具等、備品類の点検を行い、常に安全、安心、清潔が保たれている	18			18
3	施設内外にかかわらず、保育者からの死角のない環境設定にしている	14	2	2	18
4	開園から閉園までの1日を通して、子どもが落ち着いて過ごせるよう静的活動と動的活動の両方を保障している	17	1		18
5	時間帯によっては異年齢で過ごすことも想定して玩具や遊具を整えている	17		1	18
6	子ども相互の関わりや周囲の大人との関わりが自然と促されるよう、複数の子どもと遊べるような遊具やコーナーの設定をしている	17	1		18
7	子どもの動線に配慮した環境になっている	17	1		18
8	子どもが遊んだり、くつろいだりできるよう、年齢や発達に適した環境設定をしている	16	1	1	18
9	外気に触れ、自然を感じ、興味をもって探索する楽しさを十分に味わい、子どもが安心して遊べる安全面に配慮された園庭・公園・連携園の施設などが確保されている	17	1		18

3(ア)保育計画・評価

		○	△	×	
1	全体的な計画は、園の方針や目標に基づき、子どもの発達過程を踏まえた保育の内容が、組織的・計画的に構成されている	16		2	18
2	全体的な計画は、保育園の生活の全体を通して、保育の内容が総合的に展開されるよう作成している	16		2	18
3	生活や発達を見通した長期計画（年間指導計画・期の指導計画・月の指導計画）や、具体的な子どもの姿（日々の生活に即した短期計画・週案・日案）を作成している	14	1	3	18
4	0, 1, 2歳児については、一人一人の子どもの発育や心身の発達、活動の実態、家庭環境等を踏まえて、個別の計画を作成している	15		3	18
5	3歳以上児については、個の成長と集団生活での成長を考慮して、発達の各時期にふさわしい生活が展開されるよう、指導計画を作成している	16		2	18
6	発達等の支援を必要とする子どもについては、発達の過程や状況を把握して適切な環境や援助等の個別の計画を立てている	16		2	18
7	発達等の支援を必要とする子どもの個別の指導計画は、職員間や家庭、関係機関との連携した支援のために適切に活用している	14	2	2	18
8	就学前教育・保育と小学校教育との円滑な接続が図れるよう、アブローチャリキョウラム等に基づいた保育の計画を立てている	10	2	6	18
9	保育所保育指針等に示された「育みたい資質・能力」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について理解し、就学前教育・保育の方向性や計画作成に取り入れている	13	2	3	18
10	児童票、園日誌（業務日誌）、保育日誌、保健日誌等があり、子どもの成長や日々の活動、保育の振り返り等を記録している	17		1	18
11	環境の構成や子どもに対する援助について改善すべき点を見出し、保育の改善が図られるよう定期的に計画等を振り返る機会を設けている	14	1	3	18
12	保育士等は、保育の計画や保育の記録を通して、自らの保育実践を振り返り、自己評価をすることで、専門性の向上に向けた保育実践の改善に取り組んでいる	15	1	2	18

13	保育士等の自己評価は、子どもの活動内容やその結果だけでなく、子どもの心の育ちや意欲、取り組む過程なども十分踏まえて行っている	14	1	3	18
----	--	----	---	---	----

3(イ)乳児保育 1歳未満児

	○	△	×
1	14	1	3
2	14		4
3	14		4
4	14		4
5	14		4
6	13	1	4
7	14		4
8	13	1	4
9	10	2	6
10	14		4
11	13	1	4
12	13	1	4

1 心と体の健康は、相互に密接な関連があるものと認識し、喜びや驚き、励まし等温かく共感した関わりをしている

2 発育に応じて体を動かす機会を十分に確保し、自ら体を動かそうとする意欲が育つようにしている

3 月齢や年齢による一律の区分だけでなく、それぞれの発達の状況に応じた活動を取り入れ、落ち着いて過ごせる工夫をしている

4 健康な心や体を育てる上で、食習慣の形成が重要であることを認識し、離乳食から完了食へと移行する中で、様々な食品に慣れるようにしている

5 食べる喜びや楽しさを感じ、進んで食べようとする気持ちや育つよう、子どもと気持ちを共有しながら保育士等が一人一人丁寧に関わっている

6 保育士等との関係に支えられて生活を確立していくことが、人と関わる基盤となることを認識し、子どもが多様な感情を受け止めている

7 人との信頼感を得ることを意識し、子どもの声や表情、仕草や動きなどにタイミングよく共感的に応えている

8 言葉育て、人とやり取りすることの喜びと意欲を育むことを意識し、喃語や指さしなどを保育士等が共感しながら言葉に置き換えて伝えている

9 個人や月齢の違いによる発達差の大きい時期の子どもたちの探索意欲を満たすために、一人一人の子どもがどのようなものにも興味があるのか理解し、遊びを通して感覚の発達が促されるよう工夫している

10 玩具を選ぶ際には、形や手触り、色合い、大きさや重さ、持ちやすさ、音の大きさや質など子どもの感覚や動きに照らし吟味している

11 一人一人が充実して遊べるよう、場所の広さや動線など空間の作り方に配慮している

12 子どもが感性や感受性を豊かにもち、表現する力を身に付けていくために、保育士等は表情豊かに接している

3 (ウ)1歳以上3歳未満児

	○	△	×
1	14	1	3
2	15		3
3	12		6
4	16		2
5	14		4
6	14		4
7	13	1	4
8	13	1	4
9	13	1	4
10	6	5	7
11	13	2	3

子ども自らが体を動かそうとする意欲が育つよう、一人一人の発育に応じて体を動かす機会を十分に設けている

食習慣を形成するため、充実した遊びの時間と規則正しい生活リズムを意識して保育にあたっている

ゆったりと落ち着いた雰囲気の中で、友達と一緒に楽しく、進んで食べようと  
する気持ちが育つような援助を心掛けている

基本的な生活習慣の習得にあたっては、個人差や家庭の生活状況によって異なることから、一人一人のペースを尊重しながら援助している

排泄の習慣は、他の子と比べたりの便器に座ることが苦痛となったりしないよう、焦らずタイミングよく誘うことを心掛けている

保育者への安心感を基盤に自分で何かをしようとする気持ちを見守り援助している

子どもの様々な感情を受け止め、立ち直る経験や感情をコントロールすることへの  
気付きなどにつなげていけるよう援助している

友達の気持ちや友達との関わり方に気付けるよう、葛藤が生じた時など双方の  
思いを大切にし、対応している

子どもが自分なりの発想や工夫で楽しみ、感覚の発達が促されるよう、子どもの  
発達に即した形や大きさ、色合い、音量等の玩具が用意されている

生き物に対する温かな感情が芽生え、命の尊さに気付けるよう、生き物との関  
わり方を具体的に・実践的に伝えている

季節や文化を取り入れた、遊びや行事を体験できるようにしている

12	言葉で思いが通じ合う喜びを感じ、伝える意欲が高まるよう、楽しい雰囲気の中で保育士等と言葉のやり取りをしている	13	1	4	18
13	相手にも気持ちや思いがあることに気付いたり、受け止めたりできるよう、保育士等が仲立ちして気持ちや経験等の言語化を援助している	13	1	4	18
14	遊びや生活の中での様々な感情の表現を通じて、自分の気持ちに気付くようになる時期であることを認識し、子どもの思いに沿った言葉をかけている	13	1	4	18
15	子どもが自分の力でやり遂げる充実感などに気付くよう見守り、適切な援助をしている	14		4	18
16	発見や心が動く経験が得られるよう、様々な感覚を働かせることを楽しむ遊びや、素材を用意するなどの工夫をしている	11	3	4	18

		○	△	×
1	自ら体を動かそうとすると意欲が育ち、十分に体を動かす気持ち良さ、楽しさを体験できるよう、子どもの興味や関心に応じて全身を使った活動を取り入れている	14		4
2	自分の体を大切にしようとする気持ちが育つよう、適度な休息や水分補給、汗の始末や衣服の調節等への働きかけをしている	15		3
3	食の大切さに気付き進んで食べようとする気持ちが育つよう、子どもが楽しく食べられる雰囲気づくりや食べ物への興味や関心を高める活動を取り入れている	14		4
4	生活に必要な習慣を身に付け、次第に見通しをもって行動できるよう、自分でやり遂げたという満足感が持てる主体的な活動が展開されている	13		5
5	危険な場所や危険な遊び方わかり、適切な行動が身に付けられるような活動を取り入れている	11	3	4
6	試行錯誤しながらやり遂げる達成感や、自分の力で行うことの充実感を味わうことが出来るよう、子どもの行動を見守りながら適切な援助をしている	13	1	4
7	自分の良さや特徴に気付き、自信をもって行動できるよう、集団生活の中で子どもが自己発揮し保育士等や他の子どもに認められる体験ができる機会がある	13		5
8	他の子どもと試行錯誤しながら活動を展開する楽しさや、共通の目的が実現する喜びを味わうことができるような活動を取り入れている	12	1	5
9	他の子どもとの関わりの中で他人の存在に気付き、相手を尊重する気持ちをもって行動できるよう、様々なやり取りや葛藤を体験できるようにしている	13		5
10	きまりの必要性に気付き、自分の気持ちを調整する力が育つよう、お互いの思いを主張し、折り合いをつける体験を取り入れている	13		5
11	高齢者をはじめ地域の人々などに親しみを持ち、人と関わることの楽しさや人の役に立つ喜びを味わうことができるような体験を取り入れている	7	2	9
12	子どもが自然との関わりを深めることができるよう、自然の大きさ、美しさ、不思議さなどに直接触れる体験を取り入れている	12	1	5
13	動植物に対する畏敬の念、生命を大切にすることの大切さを育ち、探求心などが養われるよう、自然との出会いの機会をもっている	10	4	4
14	日常生活の中で、様々な文化や伝統に触れ、親しむ機会をもっている	12	2	4
15	言葉での伝え合いができるよう、友達同士で自由に話せる環境を構成し、子ども同士の交流が図られる機会をもっている	14		4
16	自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じたりする活動をしている	14		4
17	日常生活の中で数量や文字などを使いながら、自分の考えを表したり伝え合ったりする活動をしている	14		4
18	様々な表現を楽しむよう遊具や用具を整え、色々な素材を使った表現の仕方に親しむ活動をしている	14		4
19	小学校の生活に見通しができるよう、小学校への訪問や、小学生と交流する機会を設けている	1	4	13
20	保育園から小学校への移行を円滑にするために、アプローチャリキウムに沿った保育を展開している	4	3	11



21	子どもに関する情報共有のために、一人一人の子どものよさや全体像が伝わるように工夫し保育要録を作成、就学先の小学校へ送付している	11	7	18
22	子どもの育ちをそれ以降の生活や学びへと繋げられるよう、就学先の小学校教員との話し合いなど、顔の見える連携を図っている	4	5	18

4 食育

	○	△	×
1	12	1	5
2	17		1
3	16	1	1
4	13	2	3
5	16	1	1
6	16	1	1
7	18		
8	15		3
9	18		
10	14	4	
11	16		2
12	11	4	3
13	16	2	

「保育所における食事の提供ガイドライン」(※)をベースに、各保育施設の食育に関する目標や計画が作成されている

栄養士・給食調理員と保育士等が定期的に情報交換し、連携を図って食に関する取り組みを行っている

自らの健康と食物の関係について関心をもつ取り組みを行っている

自然の恵みとしての食材について、生産から消費までの一連の循環、食べ物を無駄にしないこと等、様々な体験を通して意識できるよう取り組んでいる

保育施設での子どもたちの食事の様子や、食育への取り組みについて保護者に伝えたり、家庭からの食生活に関する相談にのり、家庭と連携・協力して食育を進めている

発達に合わせて子どもが主体的に、かつアレルギ一児も安全に参加できるような計画を作成し、計画に基づいた食育活動(栽培・クッキング保育・食文化への関心等)を行っている

食物アレルギーのある子どもに対しては誤食事故がないよう、職員間で細心の注意を払いながら、他の子どもと一緒に食べているという気持ちももてるよう、環境を整えている

授乳・離乳期には家庭での生活や未摂取の食材等を考慮し、一人一人の子どもの状況に応じて時間、調理方法、量などを決め、提供している

テーブルやいすの高さや大きさ、子どもが扱いやすい食器や食具の準備等年齢に応じた食事にあわせた環境を整えている

温かい物は温かいうちに、冷たい物は冷たいうちに食事ができるなど、献立の趣旨になった適切な温度で食事が提供されるよう、喫食時間に配慮している

個人差やその日の体調など子どもの状態に合わせて量を加減する等、年齢にのりて大きさや柔らかさなどに配慮をしている

すべての献立を配膳し、子どもが好む順番で食べられる環境を設定している

無理やり食べさせたりせず、子どもの気持ちに寄り添いながら給食の介助をしている

5 発達等の支援を必要とする子どもの保育

	○	△	×
1	13	3	2
2	15		3
3	15		3
4	15		3
5	15	1	2
6	16		2
7	16		2
8	15	2	1
9	16		2
10	12	1	5

個別の指導計画を保育士等で共有し、子どもの状況と成長に応じた保育が行えるようにしている

子どもの状態に応じた環境設備に配慮している

子ども同士の関わりに配慮し、共に成長できるようにしている

子どもにとって課題となっていることが生じやすい場面や状況・理由などを適切にとらえ、具体的な目標や見通しをもって関わっている

保護者との連携を密にして保育園での生活に配慮している

保護者の悩みに寄り添い、子どもの育ちや保護者の置かれた状況に関して、共に考える姿勢をもっている

子どもや保護者の様子、施設の対応等について、定期的に職員間で話し合う機会をもち、共通理解を深めて保育にあたっている

保育士等は様々な子どもたちの育ちの特性や関わり方などについて、研修などにより必要な知識や情報を得ている

必要に応じて、医療機関や専門機関から相談や助言を受けられるよう連携を図っている

小学校への切れ目のない支援として繋げていくために、サポートファイアールや個別の支援・指導計画を活用する体制を整えている

6 健康

	○	△	×	
1	18			18
2	17		1	18
3	16		2	18
4	11		7	18
5	17	1		18
6	18			18
7	18			18
8	17	1		18
9	17	1		18
10	17		1	18
11	18			18

1 子どもの日々の健康観察を行い、健康状態がいつもと違う状況にある場合はその対応をするとともに、保護者に連絡をし、共有している

2 子どもの入園の際に既往歴及び予防接種等を把握しており、必要に依りて予防接種の勧奨を行うなど、子どもの健康増進に努めている

3 定期的な（年2回以上）健康診断が行われ、結果を保育士等や保護者と共有し保育に反映させている

4 与薬にあたっては医師の指示に従い、依頼書等に基づき行っている。与薬の際は複数の保育士等で確認を行い、安全に与薬をする仕組みを整えている

5 保健（日々の衛生管理・感染症対策等）に関するマニュアルがあり、職員全員に周知徹底されている

6 定期的な勉強会などを行い、感染症の予防や発生時の対応（処理の手順や方法）の習得に努めている

7 感染症発生時には園内掲示等で保護者に伝達し、園内の衛生管理を徹底するなど、保護者の協力や職員の連携などにより感染拡大防止に努めている

8 新型コロナウイルス感染症に関する正しい知識を身に付け、職員間で情報を共有するとともに予防策についても理解し、実践している

9 新型コロナウイルス感染症の長期化に伴う子どもへの影響を考慮し、自分で自分を守る方法を身に付ける健康教育を行うことで、不安などに対応できるように努めている

10 乳児期は食事、睡眠、排泄の状況を家庭と保育園の相互で共有し、一日を通した生活リズムを把握して健康に過ごせるよう配慮している

11 健康・安全な生活に必要な習慣や態度を身に付けられるよう、年齢や発達に応じ、子どもが理解できるように工夫し、援助している

	○	△	×
1	12	5	1
2	15	2	1
3	16	2	
4	18		
5	15	2	1
6	16	1	1
7	17		1
8	12	4	2
9	17		1
10	17		1
11	18		
12	18		
13	12	3	3
14	17		1
15	8	6	4
16	17		1
17	18		
18	18		

1 事故（水による事故、食事中等）や災害、不審者の侵入などについて、リスクや注意すべきことが整理され、事故防止や緊急時の対応マニュアルが作成されている

2 事故防止や緊急時の対応について全職員に周知し、研修や事故発生時を想定した実践的な訓練を行っている

3 事故報告やヒヤリハット報告を保育士等で情報共有し、再発防止に向けて話し合いを行い、対応している

4 救急蘇生法やAEDの使用法等、応急処置について理解している

5 室内の安全点検や保育に関する設備、備品などを含む保育環境のチェックを定期的に行い、必要に応じ改善を行っている

6 子どもを保育する際は、常に緊急時にも対応できる職員体制を整えている

7 その日の子どもの様子や活動内容における安全管理において、保育士等で事前の確認、準備などを行うとともに、子どもの行動を予測し声を掛け合いながら保育を実践している

8 引継ぎ時や活動の切り替え時に、子ども的人数を確認（顔と名簿を照らし合わせ）している

9 小さな怪我であっても状況を把握し、保護者に報告している

10 園外保育を行う際には、場所の選定に配慮し、危険箇所の予測や不審者の対策などを十分に行い、緊急時の連絡体制をしっかりと整えている

11 プール活動や水遊びを行う場合は、監視役に徹する職員と指導する職員を分けて配置し、役割分担を明確にしている

12 食中毒の予防に向けて、子どもが清潔を保つための生活習慣を身に付けられるよう、手洗い指導などに取り組んでいる

13 食事の際には水分補給を行い、のどを潤してから食べる、口の中に食べ物が残っていないか、詰め込みすぎているかなどの配慮をしながら食事の介助や見守りを行っている

14 アレルギー対応については、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」（※）等に基づき、アレルゲン食品の確認、献立の確認、食事提供時の留意点等マニュアルが整備されておりマニュアルに沿って対応している

15 アレルギーのある子どもが誤食した場合の対応方法、エビペンの使用方法を理解している

16 アレルギーのある子どもと保護者との話し合いを定期的にもつことで医師の診断に基づいた対応を確認している

17 午睡の際には、一人一人の寝具が用意されており、午睡チェックを行い、うつぶせで寝ているときは体位を変えるなど、乳幼児突然死症候群（SIDS）防止の取り組みを行っている

18 午睡時の子どもの顔色や小さな変化も見逃さないよう、室内は適切な明るさが保たれている

8 災害への備え

	○	△	×
1	15	1	2
2	18		
3	17	1	
4	16		2
5	12	3	3
6	13	4	1
7	4	7	7

災害時の食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄している

消防計画や地域の避難場所などを保育士等に周知し、定期的な避難訓練や消火訓練を行っている

防火設備、避難経路等の安全性が確保されるよう、定期的なこれらの安全点検を行っている

様々な災害を想定し、緊急時の具体的な対応や役割分担などのマニュアルが作成されており、定期的に訓練を行っている

災害時の保育体制、保護者との連絡体制および円滑な引き渡し方法が確立されており、保護者や職員に周知している

大雨による河川の氾濫など、水害のリスクに備え、ハザードマップを活用して、必要な対策や避難場所・避難経路を確認し訓練している

災害時に連携や協力が図れるよう、日頃から地域の関係機関（自治会、近隣の商店街や企業等）との関係づくりに努めている

9 子育て支援

		○	△	×	
1	保護者との相互理解を図れるよう、保育に関連した様々な機会（各種おたより・保護者懇談会等）を活用し、保育方針や保育の意図を説明している	13	3	2	18
2	保護者が子どもの姿への理解、発達の見通し、対応方法等を知ることができるよう保育の活動に参加できる機会を設けている	5	4	9	18
3	保護者保護者の状況に配慮しながら、子どもが安定して豊かな時間を過ごすことができるよう、子どもの生活を24時間サイクルでとらえ、長時間保育においても連続性を考慮した対応をしている	11	4	3	18
4	子どもに障がいや発達上の課題が見られたり、育てにくさを感じたり、育児不安がある保護者に対しては、関係機関と連携を図りながら、子育てに前向きになれるように個別の支援を行っている	15	2	1	18
5	特別な配慮を必要とする家庭（外国籍、障がい児、ひとり親、貧困等）には、保護者の不安感に気付けるように、送迎時などに丁寧に関わり、必要とする家庭を支援につなげるよう努めている	15		3	18
6	不適切な養育や虐待が疑われた場合には、速やかに関係機関との情報共有や連携を図れるよう、状況の把握や通告に関するマニュアルなどを作成し園内での対応を協議する体制が整えられている	12	1	5	18
7	家庭で子どもを育てていく上での安心感へ繋げられるように、地域のニーズや保育園の特性、実状に応じた子育て支援の取り組み（園庭開放や行事参加、保育体験、子育て相談、子育て関連情報の提供等）を行っている。	13	3	2	18
8	地域における子育て支援拠点となるために、専門性を活用しながら、地域の家庭を対象とした育児講座の開催、子育てに関する講習会への職員の派遣など子育て支援事業に取り組んでいる。	11	2	5	18
9	子どもの健全育成や、様々な人間関係づくりに繋げられるよう、地域の関係機関等や、子育て支援に関する地域の人材との連携を図っている。	10	2	6	18
10	要保護児童への対応や、子どもや子育て家庭を巡る諸問題の発生予防、早期発見、その解決に繋げるため、関係機関との情報共有や連携、協力を行っている。	17		1	18

10 職員に求められる資質

	○	△	×
1	18		
2	17		1
3	16	1	1
4	18		
5	17	1	
6	16	1	1
7	14	1	3
8	9	5	4
9	18		
10	17		1
11	7	8	3
12	18		
13	18		
14	18		

1 社会人としての自覚をもち、常識ある態度で職務に臨んでいる

2 子どもを一人の個としてとらえ、一人の人間として尊重し、子どもが主体的意欲的に活動できるよう働きかけている

3 乳幼児の発達過程を理解し、子ども一人一人の成長・発達に合わせ見通しを持った援助をしている

4 保護者の気持ちに寄り添い、保護者と共に子どもの成長を喜び合い、子どもの育ちや子育てを支えている

5 個人情報 の適切な取り扱い、秘密の保持を徹底している

6 日頃の保育を定期的に振り返り自己評価し、保育の質の向上に努めている

7 子どもを取り巻き 家庭、地域社会全体に視野を向け、常に子どもの福祉の向上を考え意識をもちている

8 地域の子育て支援の拠点として関係機関と共に子育てを支援し、地域で子どもを育てる環境づくりに行っている

9 日頃から職場内研修や職場外研修、自己研鑽により保育の専門性を高める努力をしている。

10 倫理観・人間性・保育園職員としての責任感をもち、自覚をもって保育に従事している

11 保育所保育指針や浦安市就学前「保育・教育」指針いきいき☆浦安っ子を十分に理解し日々の保育実践に生かしており向上心をもって取り組んでいる

12 愛情をもって子どもたち一人一人と向き合い、一緒に楽しむことができ、積極的に保育に従事している

13 職員会議、研修、他園との交流等を通して、自身の保育の課題や不足している専門知識・技術について「気づき」の機会をもちている

14 保育士をはじめ、看護師、調理員、栄養士など職員がそれぞれの有する専門性を認識するとともに、共通理解を図りながら、保育に取り組んでいる



15	地域に開かれた社会資源として、地域の様々な人、場、機関などと連携し地域の子育て力の向上に努めている	9	4	5	18
16	互いの良いところを尊重し、認め合い、支え合う関係ができています	17	1		18
17	職員間で報告、連絡、相談ができ、指導や助言をすることができています	18			18
18	職員間のコミュニケーションを円滑にし、共通理解と協働性を高めようとして行動している	17	1		18
19	職員（実習生を含む）を育てることを自覚し、アドバイスなども積極的にやっている	16	1	1	18
20	園長等は、施設の課題を自覚し、職員に対し指導や助言を行うなど、役割を果たしている	14	3	1	18
21	園長等は、保育園全体で質の高い保育を行うためのリーダーシップを発揮している	15	2	1	18

1 1 運営体制

		○	△	×
1	園長等は、保育園の役割や社会的責任を遂行するために、法令等を遵守し保育園を取り巻く社会情勢を踏まえ、園長としての専門性等の向上に努めている	17		1
2	運営事業者（園長等含む）として、熱意と積極性をもっており、保育に対する理念や方針が明確である	17	1	
3	経営者層と園長等との意見交換があり、方針決定や判断の参考としている	17		1
4	園長等は、現場の職員が気軽に相談でき、助言、意見交換などができる体制を整えている	17	1	
5	園長等が他園との交流や外部研修の機会等がもてるよう働きかけている	16	1	1
6	自身の保育を振り返り、保育の課題等への共通理解や協働性を高め、保育園全体として保育の質の向上を図るため、園内での研修が充実している	17	1	
7	保育の課題への的確な対応や専門性の向上を図るために、外部研修に参加するための体制が整えられている	16	2	
8	会議を定期的かつ必要に応じて開催し、保育目標、保育の状況、一人一人の子どもの発達状況について話し合い、共有している	18		
9	保育士等の役割分担を明確にし、協力体制をとって保育している	17	1	
10	互いにコミュニケーションを図り、チームとして保育に取り組んでいる	18		
11	保育士等の安定雇用のための労働条件（給与水準・休暇制度・休憩時間等）や自己啓発、リフレッシュのための労働環境（人員配置・時間の保障など）が整えられている	13	4	1
12	保育士等のワークライフバランス（育児、介護等）に関する視点をもち、具体的な取り組みが実践されている	16	1	1
13	職場におけるハラスメントについて保育士等が正しく理解し、職場でのハラスメントの防止と解決に向けて取り組んでいる	17		1
14	ノンコンタクトタイム（※）を意識し、確保できるよう努力している	15	1	2
15	保育士の専門性が必要な業務内容を整理し、業務の効率化や改善に努めている	17		1
16	保育士等の意見を反映しながら自己評価や保育の質の向上・改善の取り組みを行っている	17		1
17	利用者からの苦情に迅速かつ適切に対応するため、苦情受け付けの窓口を設置する等、必要な措置を講じている	18		
18	保育施設の自己評価、利用者アンケート等に取り組み、その結果を踏まえた保育の改善について保護者に伝えている	15	2	1